

「みずから暮らしを守るマップ」

## Q & A集

平成30年9月

岡崎市 土木建設部 河川課

# 目 次

## 1. マップの概要

- Q 1-1. 「みずから暮らしを守るマップ」とは何ですか？
- Q 1-2. このマップはどのように利用するものですか？
- Q 1-3. このマップはどこで見ることができますか？
- Q 1-4. このマップは配布しないのですか？

## 2. 浸水箇所（着色箇所）について

- Q 2-1. このマップを見ると自宅が着色されていますが、対策が必要ですか？
- Q 2-2. このマップで着色されている箇所への規制等がありますか？
- Q 2-3. このマップで着色されている箇所は、今後公共で浸水対策を行うのですか？

## 3. マップの作成方法について

- Q 3-1. このマップの浸水箇所はどのように作成していますか？
- Q 3-2. このマップの標高はどのように設定していますか？
- Q 3-3. このマップにおける水害リスクの高い箇所とはどのような箇所ですか？
- Q 3-4. このマップは避難場所を表示しないのですか？
- Q 3-5. このマップは市全域が対象ですか？
- Q 3-6. 市街化区域を対象としたのはなぜですか？
- Q 3-7. このマップの氾濫解析条件を教えてください。
- Q 3-8. このマップの対象降雨が30年確率降雨とありますが、なぜですか？
- Q 3-9. 30年確率降雨とは？

- Q 3-10. このマップでは河川氾濫は考慮されていますか？
- Q 3-11. このマップでは土砂災害は考慮されていますか？
- Q 3-12. このマップの着色が四角形なのはなぜですか？
- Q 3-13. このマップに大きな四角形（枠線）と小さな四角形（着色）があるのはなぜですか？
- Q 3-14. 25mメッシュとしたのはなぜですか？
- Q 3-15. このマップの大きな四角形（枠線）と小さな四角形（着色）が正方形でないのはなぜですか？
- Q 3-16. このマップで浸水深の凡例はどのように設定しているのですか？
- Q 3-17. このマップの浸水範囲が過去の浸水実績と異なっていますが、なぜですか？
- Q 3-18. このマップで着色されていない箇所は浸水しないのですか？
- Q 3-19. このマップで大きな四角形（枠線）や小さな四角形（着色）が表示されていない箇所がありますが、なぜですか？
- Q 3-20. 今後土地の形態が変化したり浸水対策が進んだ場合、このマップの浸水範囲や浸水深は変わりますか？
- Q 3-21. 以前農地だった箇所が埋め立てられたのですが、このマップでその箇所が着色されていますが、なぜですか？

#### 4. その他

- Q 4-1. このマップを公表することで地価への影響はありませんか？
- Q 4-2. 水害リスクを考慮した土地利用や住まい方は、どのようにすればよいですか？
- Q 4-3. このマップは今後更新するのですか？
- Q 4-4. 他に公表されているマップとの違いは何ですか？
- Q 4-5. なぜ「みずから暮らしを守るマップ」という名称なのですか？

## 1. マップの概要

### Q 1-1. 「みずから暮らしを守るマップ」とは何ですか？

近年、増加傾向にある「非常に激しい雨」※1として解析上の降雨規模を時間最大 70 ㎜程度に設定し、市街化区域全域の浸水範囲や深さを予測したものです。

本マップは「岡崎市総合雨水対策計画」で掲げている基本施策のプロジェクト実施のために作成・公表するもので、本マップを公表することで水害リスクの周知を図り、浸水被害を受けにくい住まい方や土地利用を促進することを目的としています。

※1 気象庁：雨に関する用語（一時間に 50 ㎜以上 80 ㎜未満の雨）

### Q 1-2. このマップはどのように利用するものですか？

本マップから水害リスク（地域の地形特性）を確認することで、日常生活での活用（備え）や住宅建築時の宅盤高や既存の住宅の水害対策を実施する際の目安、土地利用の参考データとして利用していただけます。

関連 URL 「みずから暮らしを守るマップ利用マニュアル」

(<http://www.city.okazaki.lg.jp/1550/1566/1635/p022936.html>)

### Q 1-3. このマップはどこで見ることができますか？

電子媒体として「岡崎市わが街ガイド」※1や紙媒体として市役所窓口（市政情報コーナー、河川課）にて見ることができます。

※1 地図や画像を利用して岡崎市の行政情報や地域情報を、インターネットを通じて市民の皆様にはわかりやすく公開・提供するサイトです。

関連 URL 「岡崎市わが街ガイド」

【水害リスク情報】参照

(<https://www2.wagmap.jp/okazakicity/Portal>)

#### Q1-4. このマップは配布しないのですか？

GIS<sup>※1</sup>により住所検索や縮尺変更が可能であり、「岡崎市わが街ガイド」上で利用者が見たい場所を中心に見ることができます。それらの利点を活かして利用していただきたいことからマップ配布の予定はありません。

※1 地理情報システム（GIS：Geographic Information System）は、地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ（空間データ）を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術です。

## 2. 浸水箇所（着色箇所）について

**Q 2-1. このマップを見ると自宅が着色されていますが、対策が必要ですか？**

本マップを公表する目的は水害リスクの周知を図り、浸水被害を受けにくい住まい方や土地利用を促進することであり、本マップによる浸水区域（着色されている箇所）について市民や事業者の皆さんに対して対策を義務付けるものではありません。

**Q 2-2. このマップで着色されている箇所への規制等がありますか？**

本マップを公表する目的は水害リスクの周知を図り、浸水被害を受けにくい住まい方や土地利用を促進することであり、本マップによる浸水区域（着色されている箇所）について規制を行うものではありません。

**Q 2-3. このマップで着色されている箇所は、今後公共で浸水対策を行うのですか？**

本マップによる浸水区域（着色されている箇所）は公共の整備水準を超える降雨条件での氾濫解析シミュレーションの結果であり、今後公共で雨水対策を行う区域を示したものではありません。公共による雨水対策は、各整備計画などに基づいて実施していきます。

### 3. マップの作成方法について

#### Q3-1. このマップの浸水箇所はどのように作成していますか？

コンピューター上で、国から公開されている標高データ（基盤地図情報数値標高モデル）を設定し、そこに現況の河川や排水施設をモデル化した上で、計画目標である近年、増加傾向にある「非常に激しい雨」（時間最大70<sup>mm</sup>程度）を降らせ、地表面から排水施設や河川へと雨水が排水される様子を予想したもので、排水施設や河川へ排水しきれない雨水が地表面に滞水し、標高の低いところへ集まった状態を示しています。

#### Q3-2. このマップの標高はどのように設定していますか？

本マップの標高は、国土地理院の基盤地図情報数値標高モデルを使用し設定しています。

航空レーザー測量による5mメッシュの標高データを使用して25mメッシュを作成し、氾濫解析シミュレーションを行っています。

関連 URL 1 「国土地理院\_航空レーザー測量の仕組み」

([http://www.gsi.go.jp/kankyochiri/Laser\\_senmon.html](http://www.gsi.go.jp/kankyochiri/Laser_senmon.html))

関連 URL 2 「高精度な標高データについて」

([http://www.gsi.go.jp/kankyochiri/Laser\\_demimage.html](http://www.gsi.go.jp/kankyochiri/Laser_demimage.html))

#### Q3-3. このマップにおける水害リスクの高い箇所とはどのような箇所ですか？

排水施設の整備水準を上回る大雨に対する雨水の排水不良や、低地・窪地などといった地形的なリスクにより、氾濫解析シミュレーション上、雨水が集まり滞水する可能性が高い箇所などです。

#### Q3-4. このマップは避難場所を表示しないのですか？

本マップは水害リスクの周知を図り、浸水被害を受けにくい住まい方や土地利用を促進することを目的としています。

水害時にどのように避難するのかを知らせるための「水害ハザードマップ」とは異なりますので、避難場所は表示していません。

### Q3-5. このマップは市全域が対象ですか？

氾濫解析シミュレーションは市街化区域を対象に実施しております。そのため、市街化区域の浸水区域(着色されている箇所)のみを表示しています。

### Q3-6. 市街化区域を対象としたのはなぜですか？

市街化調整区域は、河川氾濫による水害は別として、本マップの解析上の降雨規模においては農地たん水等の発生はあると思いますが、家屋浸水まで発生する可能性は低いと考えています。

また、市街化調整区域においては近年の災害時(東海豪雨や平成20年8月)や、台風や局所的な降雨での当課の水防実績においても家屋浸水の報告はないと認識していることから市街化区域を対象としています。

### Q3-7. このマップの氾濫解析条件を教えてください。

「氾濫解析条件一覧」を参照してください。

関連 URL 「『みずから暮らしを守るマップ』 氾濫解析条件一覧」

(<http://www.city.okazaki.lg.jp/1550/1566/1635/p022936.html>)

### Q3-8. このマップの対象降雨が30年確率降雨とありますが、なぜですか？

過年度、策定した「岡崎市総合雨水対策計画」において、複合的な雨水対策に取り組むことで30年確率降雨(時間最大70㎍程度)に対して「床上浸水被害解消」を計画目標としており、本マップの公表も総合雨水対策計画の施策の一つ(水害リスクの回避)です。また、30年確率降雨(時間最大70㎍程度、日雨量220㎍程度)は県などが管理する一級河川などの将来の整備目標としているもので、膨大な時間がかかる河川整備を待たずに「岡崎市総合雨水対策計画」による施策を組み合わせることで、この降雨に対する安全性を先行して確保することを目指しています。

関連 URL 「岡崎市総合雨水対策計画」

(<http://www.city.okazaki.lg.jp/1550/1566/1635/p020024.html>)



### Q 3-9. 30年確率降雨とは？

愛知県発行（H18.1.1）の「愛知県の確率降雨」より岡崎地区は1時間で70<sup>㍉</sup>程度、24時間で220<sup>㍉</sup>程度の雨量として所定の計算式（降雨強度式＜観測データは1942年から2000年＞）から算出されるものです。一般的には「30年に1回の大雨」と言われるもので、過去の観測データから統計的に推定したものです。（毎年、1年間にその規模の降雨が発生する確率が1/30）

関連 URL 1 「愛知県の確率降雨」

([http://www.pref.aichi.jp/kasen/koumoku/joho\\_teikyo/aichi\\_kakuritu\\_kouu/aichi\\_kakuritsukouu.pdf](http://www.pref.aichi.jp/kasen/koumoku/joho_teikyo/aichi_kakuritu_kouu/aichi_kakuritsukouu.pdf))

関連 URL 2 「気象庁\_確率降水量とは」

([https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/riskmap/exp\\_qt.html](https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/riskmap/exp_qt.html))

### Q 3-10. このマップでは河川氾濫は考慮されていますか？

本マップは、浸水被害を受けにくい住まい方や土地利用を促進することを目的としたものであり、雨水が排水施設へ排水しきれないことにより発生する浸水被害（内水氾濫）を中心に計算しています。そのため、河川の破堤や堤防決壊による氾濫（外水氾濫）は考慮されていません。

河川の氾濫については、水害時にどのように避難するのかをお知らせしている「岡崎市水害対応ガイドブック」を参照してください。

関連 URL 「岡崎市水害対応ガイドブック」

(<http://www.city.okazaki.lg.jp/1100/1113/1177/p012465.html>)

### Q 3-11. このマップでは土砂災害は考慮されていますか？

土砂災害は考慮していません。土砂災害については、愛知県ホームページ「マップあいち」をご確認ください。

関連 URL 「マップあいち」

【土砂災害情報マップ】参照

(<https://maps.pref.aichi.jp/>)

### Q 3-12. このマップの着色が四角形なのはなぜですか？

氾濫解析シミュレーションを実施する際、地表面上の水の往来を表現するために地表面を任意サイズの連続四角形（メッシュ）に分割し、各四角形に標高を持たせることで浸水区域（着色されている箇所）を表現しています。そのため浸水区域（着色されている箇所）が四角形となっています。

### Q 3-13. このマップに大きな四角形（枠線）と小さな四角形（着色）があるのはなぜですか？

大きな四角形は地表面を 25mメッシュに分割したものです。この 25mメッシュの標高で氾濫解析シミュレーションを行い、浸水深を計算しています。小さな四角形は 25mメッシュよりも細分化された 5 mメッシュです。5 mメッシュの着色は、25mメッシュを用いた氾濫解析シミュレーションによる想定浸水位と 5 mメッシュの標高との差を浸水ランクに応じて示したものです。

関連 URL 「洪水浸水想定区域図作成マニュアル（第 4 版）」

【P32 7.1. 浸水深の設定】参照

([http://www.mlit.go.jp/river/shishin\\_guideline/pdf/manual\\_kouzui\\_shinsui\\_1507.pdf](http://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/pdf/manual_kouzui_shinsui_1507.pdf))

### Q 3-14. 25mメッシュとしたのはなぜですか？

国の手引きに基づき 25mメッシュとしました。

関連 URL 「洪水浸水想定区域図作成マニュアル（第 4 版）」

【P14 3.2. 浸水解析の条件設定】参照

([http://www.mlit.go.jp/river/shishin\\_guideline/pdf/manual\\_kouzui\\_shinsui\\_1507.pdf](http://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/pdf/manual_kouzui_shinsui_1507.pdf))

### Q 3-15. このマップの大きな四角形（枠線）や小さな四角形（着色）が正方形でないのはなぜですか？

国から提供される緯度・経度に基づいたデータ（25mメッシュ）及び平面直角座標系に基づいたデータ（5 mメッシュ）を使用しています。これらのデータは広く一般的に使用されているもので、どちらも形状が正方形ではありません。

**Q 3-16. このマップで浸水深の凡例はどのように設定しているのですか？**

既に公表されている「岡崎市浸水実績図」の浸水深の凡例と同じ設定としています。「岡崎市浸水実績図」と「みずから暮らしを守るマップ」は浸水深の凡例が同じであることから水害リスクを考慮した住まい方の参考に、両マップを見比べることができるようにしています。

凡例の着色は、道路冠水以上となる浸水深 0.15m以上から 0.15m間隔で分類することで段階的な浸水深を確認できることや、浸水深 0.45mを目安とした床上・床下浸水のリスクを確認することができます。

**Q 3-17. このマップの浸水範囲が過去の浸水実績と異なっていますが、なぜですか？**

本マップは一定条件下における氾濫解析シミュレーションの結果ですので、雨の降り方や地形条件、排水施設条件などの違いにより浸水範囲が過去の浸水実績と異なる場合があります。

特に丘陵地等で局所的に起伏の激しい場所は、計算上の標高の誤差が大きくなり、浸水範囲が表示される場合があります。

「岡崎市浸水実績図」については、“Q 4-4”を参照してください。

**Q 3-18. このマップで着色されていない箇所は浸水しないのですか？**

本マップは一定条件下における氾濫解析シミュレーションの結果ですので、雨の降り方や地形条件、排水施設条件などの違いにより実際の浸水範囲や深さと異なる場合があります。

そのためマップの浸水区域（着色されている箇所）以外が浸水しないことを保証するものではありません。また、浸水深 0.15m未満の箇所は着色されていませんが、想定浸水深は表示されています。

**Q 3-19. このマップで大きな四角形（枠線）や小さな四角形（着色）が表示されていない箇所がありますが、なぜですか？**

事業の完成していない、又は標高データ（国土地理院の基盤地図情報数値標高モデル）が事業前となっている区画整理事業箇所については、一部氾濫解析シミュレーション結果を表示していない箇所がございます。

**Q 3 -20. 今後土地の形態が変化したり浸水対策が進んだ場合、このマップの浸水範囲や浸水深は変わりますか？**

土地の造成等による形態変化や雨水対策の進捗が図られた場合、それらのデータを氾濫解析シミュレーションに反映させることで浸水範囲や浸水深が変わる可能性があります。

**Q 3 -21. 以前農地だった箇所が埋め立てられたのですが、このマップでその箇所が着色されていますが、なぜですか？**

氾濫解析シミュレーションを行った際の標高データ（基盤地図情報数値標高モデル）は、実際の土地の形態と異なる場合があります。標高データが作成された平成 21 年度以降に農地が埋め立てられている場合は、氾濫解析シミュレーション上、埋め立て後の地形として反映されていないためです。

## 4. その他

### Q 4-1. このマップを公表することで地価への影響はありませんか？

不動産鑑定評価基準より不動産の価格を形成する要因として、洪水、地すべり等の災害の発生の危険性が考慮されていることから水害リスクは既に考慮されていると考えられます。

また、平成 13 年 5 月 23 日の第 151 回国会国土交通委員会より浸水想定区域の公表による地価への影響については、不動産鑑定評価基準において洪水の危険性が既に評価に入っていること及び平成 11 年 4 月現在で洪水ハザードマップを作成した 43 市町村の 268 地点について地価の動向調査を行ったところ、ハザードマップの公表前後で地価の下落につながった事例は見られなかったことから地価の動向には影響はないとの見解が示されています。

他にも、国土交通省が公表している「洪水浸水想定区域図」<sup>※1</sup>や国土地理院地図の「陰影起伏図」<sup>※2</sup>など「みずから暮らしを守るマップ」とは異なりますが水害リスクや地形情報を示した資料などは既に公表されています。

- ※1 想定し得る最大規模の降雨により当該河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を洪水浸水想定区域として指定し、指定の区域及び浸水した場合に想定される水深、浸水継続時間を公表したものです。
- ※2 北西の方向から地表面に向かって光を当て、凹凸のある地表面の北西側が白く、南東側が黒くなるよう作成した図です。尾根線、谷線の判別や断層の判読などにご活用いただけます。

関連 URL 1 「不動産鑑定評価基準」

【P6 第 3 章 不動産の価格を形成する要因】 参照

(<http://www.mlit.go.jp/common/001204083.pdf>)

関連 URL 2 「衆議院 HP\_立法情報\_会議録」

([http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb\\_kaigirokua.nsf/html/kaigirokua/009915120010523013.htm](http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_kaigirokua.nsf/html/kaigirokua/009915120010523013.htm))

関連 URL 3 「矢作川浸水想定区域図」

(<http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/bohsai/shinsui/yahagigawa/index.html>)

関連 URL 4 「国土地理院地図\_陰影起伏図」

(<https://maps.gsi.go.jp/#5/36.104611/140.084556/&base=std&ls=std%7Chillshademap&blend=0&disp=11&lcd=hillshademap&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0f1&d=v1>)

#### Q4-2. 水害リスクを考慮した土地利用や住まい方は、どのようにすればよいですか？

浸水被害に対し、入手することのできる情報や住宅の建て方や暮らし方、市の補助制度などを記載した「水害リスクを考慮した住まい方の手引き（仮称）」を今後、公表する予定です。

#### Q4-3. このマップは今後更新するのですか？

次回の更新は未定ですが、地形の大規模な改変や河川・下水道の整備の進捗によりマップの大幅な変更が見込まれる場合、または技術の進歩により解析等の精度が向上したことでマップの変更が必要と判断される場合には更新を検討します。

#### Q4-4. 他に公表されているマップとの違いは何ですか？

関連するマップに「岡崎市浸水実績図」と「岡崎市水害対応ガイドブック」があります。

「岡崎市浸水実績図」は、過去の豪雨（東海豪雨、平成20年8月末豪雨）における宅地の被害報告などから、周辺道路高に応じて大まかな浸水範囲を着色したものです。

「岡崎市水害対応ガイドブック」は、お住まいの地区の水害特性や、いざ水害が起きた場合にどのような行動を取るべきかをまとめたものです。このガイドブックには、「気づきマップ」「浸水深マップ」「逃げどきマップ」の3つのマップが掲載されており、それぞれのマップを用いて平時や水害時の避難行動等について学ぶことができます。

本マップは、「岡崎市浸水実績図」や「岡崎市水害対応ガイドブック」とは、利用目的や作成方法等が異なります。本Q&A集の「1. マップの概要」及び「3. マップの作成方法について」を参照してください。

関連 URL 1 「岡崎市浸水実績図」

(<http://www.city.okazaki.lg.jp/1100/1113/1177/p007128.html>)

関連 URL 2 「岡崎市水害対応ガイドブック」

(<http://www.city.okazaki.lg.jp/1100/1113/1177/p012465.html>)

Q4-5. なぜ「みずから暮らしを守るマップ」という名称なのか？

- ・「自身で考えるきっかけ、意識の醸成、気づき」の“自ら”と「水害、浸水に対する視点」の“水から”を掛け合わせた“みずから”
- ・ハザードマップ（大規模災害＝避難用）との違いや住まい方の参考とする“くらし”
- ・日常生活を自身（自助活動）で“守る”

上記を組み合わせ、「みずから暮らしを守るマップ」としています。